



令和3年度 千葉市立院内小学校研究計画

1 研究主題

学ぶ喜びを実感できる子どもの育成
—ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを通して—

2 研究の全体構想

【学校教育目標】

自ら考え行動し、心豊かに、たくましく生きる子どもの育成
☆考える子（自主） ☆仲よくする子（協力） ☆たくましい子（元気）

今日的な教育の現状から

- ・多様な考え方、価値観への対応
- ・ルールやマナーを学び、規範意識、人権意識を向上させる
- ・学習の楽しさを味わうことができるような授業づくり

千葉市学校教育の課題から

- ・基礎的・基本的な知識や技能を活用した問題解決的な学習活動の工夫
- ・学習への関心や意欲を高める体験的な学習活動の工夫
- ・個別最適な学び（個に応じた指導）と、協働的な学びの実現【21世紀を拓くより】

学校教育目標

（本校の重点目標より）

- ・自分の良いところを伸ばすことができる子
- ・礼儀正しい挨拶ができる子
- ・他人を思いやることができる子
- ・生命の大切さを考えることができる子

子どもの実態から

- ・明るく素直である。
- ・特別な支援を要する子どもが多数在籍している。
- ・基礎的な言語能力を要する子どもが多数在籍している。
- ・基本的な生活習慣の確立及び規範意識の定着を要する子どもがいる。

今年度の研究主題

学ぶ喜びを実感できる子どもの育成
—ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを通して—

3 研究の経緯

本校では、平成 30 年度から 3 年間、研究教科を「特別の教科 道徳」とし、「主体的に考え・認め合うことができる子の育成」を主題として2つの視点で研究を進め、成果と課題を検証してきた。基本的な手法を知り、授業に取り入れたことが、心情理解につながった一方で、聴き合い学習に児童が慣れていないことで、目標としていた認め合うところまでには至らなかったなどの反省点が挙げられた。

今年度は、昨年度までの道徳科で培った研究の成果を生かしつつ、一人一人の児童の実態に合わせた学習の指導・支援によって、教科学習（国語・算数）に対する関心・意欲を高めていきたいと考える。しかし、外国籍児童や特別な支援を要する児童、家庭環境の問題などで学習の基礎・基本の定着不足の児童がおり、習熟度の差の拡大などで校内学力の二極化が深刻な課題である。多様な環境の中で生活している児童が、細やかな指導と支援を通して、「わかる・できる・楽しい・やってみたい」を実感できるような授業づくりを考えていく必要がある。

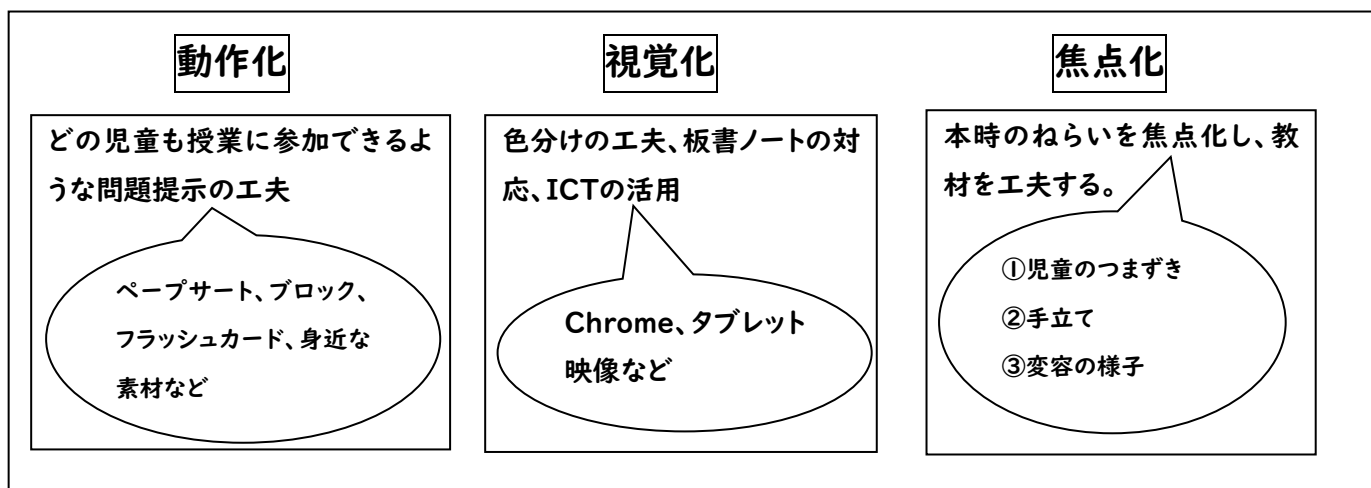
日頃から子供の見取りを大切に!数値の現れだけでは、X。

以上のことから、本年度の研究主題を「学ぶ喜びを実感できる子どもの育成」に、副題を「ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを通して」とした。

4 研究の視点について

視点1 「わかる・できる」ための授業づくりの工夫（全体）

○「わかる・できる」を実感するためには、全ての児童に対して学びの充実を図らなければならない。「わかる・できる」とは、単なるテストの得点だけで捉えるのではなく、「かけ算九九を使って文章問題を解くことができた」「面積の公式を使うと答えを求めることができた」など、児童自身の自己評価を上げることや、「45 分の学習に参加できるようになった」「ドリルや宿題を進んでやるようになった」など、関心・意欲を高めることも含めての「わかる・できる」と考えていく。そのためには、発達段階や一人一人の能力に応じた目標を設定し、基礎的・基本的な知識と技能の定着を図る必要がある。そして、教材研究・児童理解に努め、全児童が楽しく学習目標を達成できる授業を構築していくための手立てを考えていきたい。



視点2 個に応じた指導・支援の工夫（個に対して）

○授業を進める上で、学級全体や対象児童本人が抱える困難の特性理解に努める必要がある。校内研修をはじめ、コーディネーター会議、個別学習（パワーアップ学習）など、総合的に児童の実態を把握していかなければならない。そして、どんな学習活動でつまずくのか、どの段階でつまずくのか、どんな支援が必要かなど、一人一人が特に苦手なことや要因を把握・

理解し、個に応じた支援方法を見つけていく必要があると考える。

個に応じた指導の取り組み例		
<u>実施体制の工夫</u>	<u>「見える化」による意欲アップ</u>	<u>個別学習での丁寧な指導</u>
○日時など	○がんばりカードの作成	○個別での指導を基本とする。
<u>木・金</u> :朝学習 10分程度	○認定証の作成(終了時)	(PU学習:習熟度別学習)
○担当	○ヒントカード	○日本語指導
<u>フォローアップ教員</u>	○チームティーチング(T1・T2)	
担任外	一度行ったことに対して、それを強化したり効果を認識したりするために繰り返し行うこと。	
○内容		
ドリル・プリントなど		